



01

脳機能 発達分野

脳が変わる
機構を明らかにし、
その制御を目指す

生物の体はDNA上の情報に従って形づくられますが、ヒトなどの一部の動物では、生まれた後の社会環境や経験も個体の行動パターンや個性を決定づける非常に重要な要因です。経験による脳の変化は大人になっても続き、とりわけヒトでは、偏った生活パターンや社会環境は病気や脳機能障害に繋がることがあります。私たちは、脳の機能が生涯を通じてどのように発達し、また、病気により障害されるのかを明らかにし、得られた成果をもとに人類に貢献したいと願っています。

Lab. DATA

社会相互作用、発達、学習、脳機能障害
安部健太郎 教授

<http://www.lifesci.tohoku.ac.jp/research/fields/laboratory.html?id=45397>



在学生

Interview



学部4年
白石 健

私は高校生に塾で勉強を教えています。学問に王道なしとはある意味真実で、作業中の記憶が得意な子もいれば、長期の記憶が得意な子もいます。私はそんな記憶の不思議に魅惑されました。マウスや鳥をモデル動物として神経の可塑性機構を解析し、最適な教育手法を開発できる日を夢見て研究しています。

topics



小鳥(キンカチョウ)は親鳥から「歌」と呼ばれる音声聞いて学習し、自分も似た音声を発します。学習に伴う脳内の変化を頭に装着した顕微鏡を用いて観察しています。